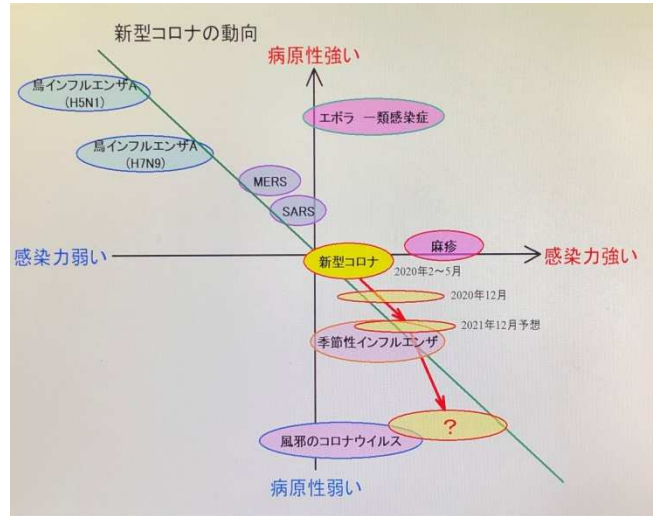


# \*\*\* 今日の健康 (12月) \*\*\*

## < 楽しみは半年先にある >

2020年3月に北京大学が変異が新種かコロナウイルスが「毒性と感染性の強い株に進化した」と報告してから半年が経過しました。「SARS-CoV-2の突然変異」(名前の最後に「2」とあるのは2002年、中国広東省を起源として世界中に広がったSARSの原因となったコロナウイルス「SARS-CoV」の姉妹ウイルスという意味)はもっとも感染力の強い「D614G変異株」を作り出したことが分かっており、現在この変異株が世界中で大多数を占めています。

日本では4月の緊急事態宣言から半年が経過し、冬シーズンに向けて連日患者数が記録的な人数を示し、関連する暗いニュースが多い中、生活様式が変化しても半年前より少しは改善し、後述の情報からさらに半年後はもっと良くなると期待しています。



最近の研究では2020年8月に欧州や北米、アジアの一部でよく見つかっている新型コロナウイルスの変異株について、感染力が強まる一方で致死率は下がっていると報告があり。

シンガポール国立大学病院は、世界の一部地域での「D614G変異株」のウイルス拡散が致死率の低下と一致している証拠があり、致死性が相対的に低いことを示唆すると報告しています。

8月、世界保健機関 (WHO) によると、新型コロナウイルスは2020年2月に変異が発見され欧州や南北米州で広がったが、変異したウイルスは変異によって毒性が強まった証拠は見つかっていないと報告しています。

11月12日に、東京大学は、新型コロナウイルスは遺伝子を変異したことで人の細胞への感染力が増し、飛沫感染しやすくなったことを動物実験で確かめたと発表しました。一方で、症状を重くするような病原性の変化は起きていないことが米科学誌サイエンス電子版に掲載されました。

11月16日、米国の研究チームは、日本の研究者らと合同でネズミやハムスターを使った実験を行い、新型コロナウイルスは突然変異によっての危険度が弱まり、ワクチンの影響を受けやすくなったと確信している。とサイエンス誌が伝えました。

一般的にウイルスの毒性と感染力は反比例し、殆どのウイルスが上図の緑の線上に位置すると考えられています。またウイルスの変異株は元々のウイルスに比べ変異をくり返す度に弱くなるとされており、コロナに関しては最終的に図の赤矢印の右下の方向へ推移していくものと期待しています。エボラや麻疹のように毒性も感染力も強いウイルスは少ないです。

大半のウイルスは変異に伴い毒性が弱まります。これは「ウイルスも地球上で生きていくためには栄養を取る宿主が必要です。より多くの人に感染しますが、感染した人を死に至らしめないのがウイルスにとって得だ。」と考えられています。